

令和6年度

# 研 究 紀 要

第56号

徳島県高等学校音楽学会

音楽部会

# 目次

I	令和6年度 徳島県高等学校教育研究大会音楽学会	1
II	令和6年度 徳島県高等学校音楽教育研究会及び研究協議会	4
III	第32回全日本高等学校声楽コンクール徳島県予選	14
IV	令和6年度 徳島県学校音楽祭（器楽合奏の部）	16
V	令和6年度 徳島県学校音楽祭（合唱の部）	19
VI	令和6年（2024年）度 人権に関する児童生徒の作品	22
VII	実践報告	
1	フレッシュ研修Ⅰを終えて（三木野 喜子教諭）	28
2	フレッシュ研修Ⅱを終えて（丸岡 聖子教諭）	35
3	フレッシュ研修Ⅱを終えて（藤本 壮教諭）	41
4	ジャンプアップ研修を終えて（梅本 香織教諭）	49
VIII	令和6年度 徳島県高等学校研究会音楽学会 会員名簿	50

# I 令和6年度 徳島県高等学校音楽教育研究大会音楽学会

- 1 研修内容 (1) 研修内容  
DTM 創作研修  
講師 四国大学 講師 小田原 令幸 先生
- (2) 吹奏楽研修  
講師 四国大学 教授 小川 一彦 先生
1. 期 日 令和6年8月9日(金)
2. 会 場 四国大学 音楽ホール スポーツ健康館 D216 D218 U105
3. 日 程 9:00 ~ 9:30 受 付 (スポーツ健康館 1 F)  
9:30 ~ 12:00 研 修  
12:00 ~ 13:00 昼 食  
13:00 ~ 16:00 声楽コンクール  
16:00 ~ 16:10 閉 会

※研修は2グループ(DTM 創作研修・吹奏楽研修)に分かれて受講

DTM 研修は (D 2 1 3)、吹奏楽研修は (スポーツ健康館 2 F サブアリーナ) で実施

# I DTM研修

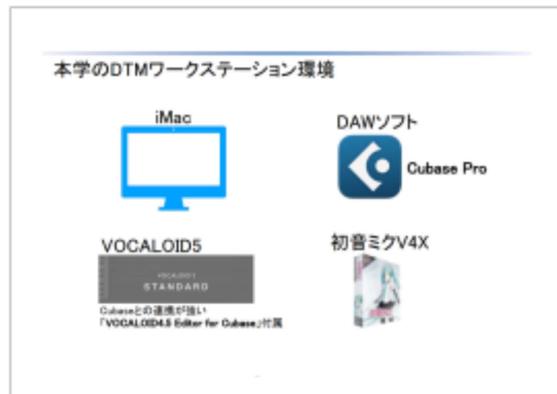
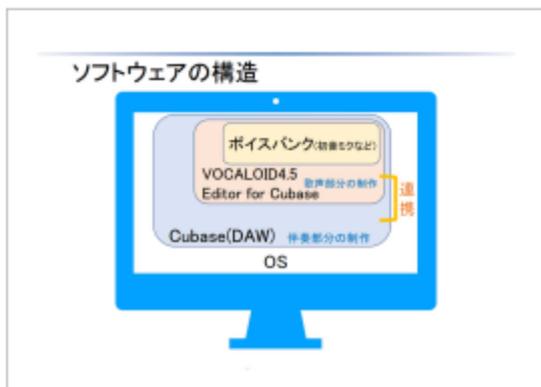
前半、後半の2班に分かれてDTM研修と吹奏楽の練習の見学をしました。

DTM研修は四国大学の小田原 令幸 先生にDTMの基本的な使い方をご教授いただきました。教室には色とりどりの i M a c が設置されており、一人1台ずつ使わせていただきました。

DTMとは（ディーティエム）とはデスクトップ・ミュージックのことで、コンピュータを用いた音楽制作を指す和製英語です。

研修では音の録音、打ち込み、編集、ミックスなどができる音楽ソフト、「DAW（ダウ）」デジタル・オーディオ・ワークステーションというソフトを使って、音の打ち込み体験をしました。普段鍵盤になれているのでパソコンでのキーボードやマウスを使っての打ち込みは、画面の見方や設定の仕方に戸惑いました。慣れないパソコンのキーボードでの入力に悪戦苦闘ながらも、さまざまな楽器の音色が重なっていくことが面白くて、時間が経つのを忘れ、どんどん作りたくなっていきました。時間が短く、制作途中で終わってしまったことが残念でしたが、普段学ぶことができないDTMについて知り、少し身近に感じることができました。楽譜が読めない生徒も楽器を弾くことが難しい生徒も画面上の譜面に音符や休符をマウス操作おいていき作曲ができるので、設備が整っていれば授業において、主体的に学ぶことができるのではないかと思います。また楽器経験者においては演奏の録音や編集が簡単にでき、音質にもこだわり、誰でも自分のスタイルで音楽を楽しむことができます。

研修後これからの時代、パソコンやタブレットを使っての音楽活動をする人も増えてくると考えられます。音楽を楽しむ選択肢の幅が広がっていく中で我々教員もその波についていかなければなりません。このような研修をさせていただきましたことに感謝申し上げます。



(小田原 先生からの資料)

(DAWの画面)

## II 吹奏楽公開レッスン見学

D T M研修では一度に20人ほどしか研修できないということで、四国大学教授小川一彦先生のご厚意で四国大学吹奏楽部の学生さんの練習を見学させていただきました。

指導をされているのは四国大学教授の小川一彦先生、アドバイザーはクラリネット奏者の井手端聡先生です。

2024年度の全日本吹奏楽コンクール課題曲I行進曲「勇気の旗を掲げて」の練習を見学させていただきました。小川先生の躍動感あふれる指揮の下、リズムカルなマーチのリズムにあわせて軽やかな旋律が奏でられていました。一度本番通りに通し練習をした後に、現状での反省点や課題について各パートやセクションの中で意見を集約し、代表の学生が発表し合う姿を見ることができました。時折、アドバイザーの井手畑先生が小川先生と連携をとりながら指導にあたられていました。気づかれたところを学生さんに直接伝え、学生さんがパート内で共有しながら指導者と学生さんが一体となり、音楽を作り上げていっている印象を受けました。学生さんが受け身でなく、主体的に練習に取り組み、また高校生とは違った部活動の様子を拝見することができました。

早朝より準備や練習をしていただき、そしてコンクール前に練習を見学させていただいたことに感謝いたします。

小川先生と四国大学吹奏楽部の学生さんに質問しました。

### ☆小川先生と学生さんへのQ&A

#### ●部員数

令和7年3月現在38名（前年度コンクール時47名）

#### ●担当楽器はどのように決めているか

基本的には学生が希望する楽器にしています。ただし、人数が不足しているパートについては本人に了承を得た上で違うパートに代わってもらう場合があります。

#### ●経験者と初心者の割合

ほぼ経験者です。中には高校時代に吹奏楽をしてなくて、久しぶりに楽器を再開するという学生もいます。

#### ●平日の練習時間

平日の月曜日と木曜日18時から20時までと、土曜日9時半から12時半で主に合奏練習をしています。コンクールや演奏会などの本番前には、土曜日・日曜日の1日練習も行います。

#### ●指導にあたって苦労していること

大学は様々な学部・学科があり、それぞれに授業のスケジュールが違うこともあり、なかなか全員揃っての練習が難しいところです。また、コンクール前であっても教育実習や就職活動で長期間練習を離れるメンバーがいるので演奏水準をキープ、向上させるのに大変苦労します。

●四国大学吹奏楽部さんの魅力は？

吹奏楽コンクールでは8年連続で全国大会に出場しており，最高峰の舞台で演奏できる機会はとても良い経験になっています。またコンクール以外にも年2回の定期公演があります。その他にも依頼演奏の機会がたくさんあり，年間を通してたくさんの曲を演奏します。

●高校の部活との違い

練習スケジュールや練習内容，また演奏会のプログラミングなど，部の運営を学生が主体的に行っています。音楽以外部分でも多くの学びがあります。

●ポリシー

『日々進化～New brand 四大吹部～』

失敗を恐れず何事にも挑戦して，前に進んでいく。感動を届ける音楽を作り，全員が輝ける部活にする。

全員で進化したい，全員で日々を大切にしたいという思いを込めて日々進化，新しい四国大学吹奏楽部を作りたい，自分たちの力でブランド力を高めたいという思いを込めNew brandという言葉を目標にしている。

●練習メニュー

基礎合奏（スーパーサウンドトレーニング）

各楽器のレッスン・パート練習・全体合奏

## Ⅱ 令和6年度 徳島県高等学校音楽教育研究会及び研究協議会

- 1 期 日 令和6年10月3日(木)
- 2 会 場 徳島県立海部高等学校
- 3 研究授業 授業者 海部高等学校 教諭 梅本 香織 先生  
題材 「沖縄の文化に親しもうー三線の演奏を通してー」  
司会者 脇町高等学校 教諭 北川 昌代 先生  
指導助言 徳島市上八万小学校 校長 谷口 早代 先生  
記録者 阿波高等学校 教諭 橋本 二千翔 先生
- 4 伝達講習 徳島県立総合教育センター 上原 祥子 指導主事  
「新学習指導要領のポイント」
- 5 日 程 12:40～13:00 受付  
13:00～13:10 開会行事  
13:20～14:10 研究授業  
14:10～14:30 休憩  
14:30～15:45 協議・指導助言  
15:45～16:00 閉会行事



# 1 研究授業

## 芸術科（音楽Ⅰ）学習指導案

令和6年10月3日第5時限

海部高等学校12HR9名

指導者 梅本 香織

### 1. 題材 奏でよう三線！ 味わおう沖縄！！

#### 2. 題材の目標

- (1) 音を連ねたときの響きや音型などの特徴について、表したいイメージの関わりや曲想と三線の音色や奏法との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、反復・変化などの曲を創るための技能や曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。
- (2) 旋律を知覚し、その働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように曲をつくったり、どのように演奏したりするかについて表現意図をもつ。
- (3) 旋律が生み出す雰囲気や表情などの変化、曲想と三線の音色や奏法に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作や器楽の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽を愛好する心情を養う。

#### 3. 教材

MOUSA1「三線」など

#### 4. 題材について

##### (1) 生徒の実態

対象生徒は第1学年普通科の音楽Ⅰ選択生9名である。本クラスは、明るく朗らかな生徒が多く、新しい知識や技能の習得に対して強い興味・関心をもっている。一方で、入学当初に行ったアンケートで、アルトリコーダーなどの器楽の表現活動は苦手意識が強い生徒も多くいた。1学期に行ったリズムアンサンブルやリズムの創作活動では、様々な視点で楽しみながら授業に取り組むことができていた。

本題材に取り組むにあたり、三線や沖縄音楽についてアンケートを実施した。三線を初めて演奏する生徒がほとんどであったが、「CMで演奏していたのを聴いて、自分も演奏してみたい」「音色が好き」「海に近い海部高校の雰囲気に合う」「沖縄に行きたいので、三線を演奏できることは嬉しい」などの意見があり、全員が沖縄音楽や三線に対して興味・関心をもっていることがうかがえた。

##### (2) 教材について

本題材は、沖縄音階を用いて旋律を創作し、創作した曲を三線で演奏することを目標におく。表現領域の器楽、創作と内容を関連させて取り扱うことは、生徒にとって音楽に対する理解を深めるとともに、より主体的な学びにつながるのではないかと考えた。

創作は、これまでに取り組んだリズムの創作を発展させ、旋律の創作を行う。旋律の創作については、沖縄音階の構成音である「ド」「ミ」「ファ」「ソ」を用いる。これらの音は三線の本調子で演奏する場合、開放絃である「合」「四」「工」と人差し指で「上」、中指で「老」「六」で演奏できるため、弦楽器を初めて演奏する生徒にとっても取り組みやすいと考えた。音符については4分音符と8分音符を用い、4/4拍子の旋律を創作することで、1学期に取り組んだリズム創作を生かせるようにする。

今回演奏に用いる三線は、沖縄県の音楽文化や歴史を学ぶ上で欠かせない楽器であり、その音色からも様々なイメージを抱くことができる。近年では、沖縄県出身のバンドが作曲した楽曲やCMで使用された楽曲に三線が用いられるなど、三線を身近に捉えられる機会も増えている。そのため、生徒が、特に興味深く三線の演奏に取り組めるのではないかと考えた。

### (3) 指導にあたって

生徒がこれまでに経験したことが少ない音楽を創作し、自身が作曲した楽曲を三線で演奏することで、音楽的視野を広げるとともに、創作した曲が完成し演奏したときの達成感と充実感を味わわせたい。

まず、創作するにあたり、音符・休符、音価、拍子、音階などの楽典の知識及び創作技能の習得を図る。三線を演奏する際の楽譜に関して、工工四（三線の楽譜）については紹介のみ行う。創作した楽譜（五線譜）に勘所や三線の音名を記入した楽譜を用いることで、これまでに学習してきた楽典や読譜の知識を生かせるようにし、より三線を身近に感じ、演奏しやすいように配慮する。

旋律が生み出す音楽に関心をもたせ、生徒の「こういった旋律を創作したい」「三線でこのような表現がしたい」という気持ちを高め、適切な手だてを講じながら、生徒が表現意図をもって創作や器楽表現する過程を大切にしたい。

本題材を通じ、生徒が沖縄の文化的・歴史的背景について興味・関心を高め、沖縄の伝統楽器である三線を演奏することで、実感を伴って理解を深められることを念頭に指導を進めたい。

## 5 学習指導要領との関連

### 音楽Ⅰ A 表現

#### (2) 器楽

器楽に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。

(ア) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり

ウ 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。

(ア) 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能

#### (3) 創作

創作に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって創作表

現を創意工夫すること。

イ 音素材，音を連ねたり重ねたりしたときの響き，音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について，表したいイメージと関わらせて理解すること。

ウ 創意工夫を生かした創作表現をするために必要な，次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。

(ア) 反復，変化，対照などの手法を活用して音楽をつくる技能

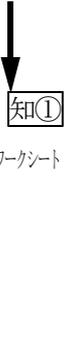
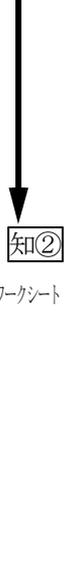
[共通事項] (1) (本題材の学習において，生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「旋律」)

## 6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知①</b>音を連ねたときの響きや音型などの特徴について，表したいイメージと関わらせて理解している。(創作)</p> <p><b>知②</b>曲想と三線の音色や奏法との関わりについて理解している。(器楽)</p> <p><b>技①</b>創意工夫を生かした創作表現をするために必要な，反復・変化などの曲を創るための技能を身に付け，創作で表している。(創作)</p> <p><b>技②</b>創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な，曲にふさわしい奏法，身体の使い方などの技能を身に付けている。(器楽)</p>	<p><b>思①</b>旋律を知覚し，その働きを感じ受しながら，知覚したことと感受したことの関わりについて考え，どのように曲をつくるかについて表現意図をもっている。(創作)</p> <p><b>思②</b>旋律を知覚し，その働きを感じ受しながら，知覚したことと感受したことの関わりについて考え，どのように演奏するかについて表現意図をもっている。(器楽)</p>	<p><b>態</b>旋律が生み出す雰囲気や表情などの変化，曲想と三線の音色や奏法に関心を持ち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。(創作・器楽)</p>

## 7 指導と評価の計画 (5/7時間)

時	◎ねらい ●学習内容 ・学習活動	評価 (◆評価方法)		
		知・技	思	態
1	<p>◎既習曲の読譜や比較鑑賞を通して，音階の特徴を理解する。</p> <p>●拍子，音符，休符について理解する。</p> <p>・既習曲の楽譜から，拍子，音符，休符について理解する。</p> <p>●西洋の音階と沖縄の音階の違いを知り，沖縄音階の特徴を捉える。</p> <p>・キーボードで西洋の音階と沖縄音階を演奏し，構成音を確認する。</p> <p>・スクリーンに提示した鍵盤と五線譜を見ながら，ワークシートに感じ取ったところを記述する。</p> <p>・沖縄音階と西洋音階を用いた楽曲を聴き比べ，音階によって旋律がどのように変化するかについて，感じ取ったことをワークシートに記述する。</p>	↓		↓
2	◎沖縄音階と曲想との関わりを捉え，表したいイメージを深めたり広げたりしながら，創作する。			

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●沖縄音階を用いて、旋律を創作する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽ソフトの使用方法について教師の説明を聞く。</li> <li>・創作に必要な条件を確認する。</li> <li>・スクリーンに表示された譜例を参考にして、創作する。</li> <li>・創作した旋律をペアやグループで聴き合い、それぞれのよさについて感じたことを伝え合う（発表は音楽ソフトの自動演奏機能を使用する）。</li> </ul> </li> <li>●個人で創作した旋律をペアで連結させて、創作する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・フレーズの連結する部分や終止音などを確認しながら創作し、工夫したところをワークシートに記入する。</li> </ul> </li> </ul>			
3	◎三線の歴史や特徴を理解し、楽器の音色に親しむとともに、三線の基本的な奏法を身に付け、楽曲を演奏する。			
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●楽器の歴史や特徴を理解し、その音色に親しむ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・三線について知っていることをペアで話し合う。</li> <li>・三線に触れ、ペアで気付いたことをまとめ、発表する。</li> </ul> </li> <li>●三線の基本的な奏法を身に付ける。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・三線の基本的な奏法を知り、開放絃の練習曲に取り組む。</li> <li>・勘所を押さえて音を出し、音程を確認する。</li> </ul> </li> <li>●「海の声」の冒頭を三線で演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・工工四（楽譜）の読み方について知る</li> <li>・教科書の楽譜を見ながら、一音ずつ勘所を確認しながら練習する。</li> </ul> </li> <li>●創作した楽曲を三線で演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・創作した楽曲の楽譜を見ながら音名や絃、勘所を確認し、楽譜へ書き込む。</li> <li>・曲に用いられている音（勘所）や音程を覚える。</li> </ul> </li> </ul>			
5	◎ペア練習を通して、沖縄音階を用いた旋律と三線の基本的な奏法との関わりを捉え、曲の完成度を高め、演奏する。			
本時 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>●三線の特徴を生かした表現を工夫して楽曲を演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲に用いられている音や勘所を確認する。（前時の復習）</li> <li>・短いフレーズごとに練習し、ペアでアドバイスをしながらすすめていく。</li> <li>・一音ずつ丁寧に練習し、単音での音楽表現を工夫する。</li> <li>・演奏しながら、創作した楽曲がより演奏しやすく、沖縄らしい音楽になるために指使いやリズムを考え、修正したところを楽譜とワークシートへ記入する。</li> </ul> </li> </ul>			
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎完成した作品を発表し、互いの演奏を聴き合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>●発表会を行い、学習のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに工夫した内容や表現効果について記入し、自己評価をする。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>			

・互いの演奏を鑑賞し，良かった点について発表し意見を共有する。	◆作品 ◆演奏 ◆ワークシート		
---------------------------------	-----------------------	--	--

## 8 本時の学習

### (1) 目標

沖縄音階を用いた旋律と三線の基本的な奏法の関わりを考えながら，イメージをもって創作する。

### (2) 展開

学習活動	○指導上の留意点	◇評価規準 ◆評価方法	要素
1 これまでの学習を振り返る。	○三線の基本的な奏法などを復習しながら，勘所を再確認する。 ○ペアで，創作した楽曲を2小節程度のフレーズで練習する。		旋律
2 本時の目標を知る。	○前時を振り返り，本時の目標を確認させる。		
旋律と三線の基本的な奏法の関わりを考えながら創作しよう			
3 1人1台端末を使って，ペアで創作した楽曲にどのような工夫ができるか考える。	○ワークシートに，修正した箇所や工夫した点を記入させ，振り返りができるようにする。		
4 工夫した内容を発表する。	○ワークシートをスクリーンに提示し，工夫した点を発表させる。 ○他のグループの発表を聴き，良かった点や参考になる点を演奏や創作に生かし，取り入れるように促す。	◇旋律を知覚し，その働きを感受しながら，知覚したことと感受したことの関わりについて考え，どのように曲をつくるかについて表現意図をもっている。(創作) ◆活動の様子 ◆演奏の聴取 ◆ワークシート	

### (3) 評価及び指導（手だて）

#### 【思・判・表①】（創作）

A（十分満足できる）と判断される具体的な状況	・旋律と三線の基礎的な奏法や表したいイメージを関わらせ、創作表現を創意工夫している。
B（おおむね満足できる）状況を実現するための具体的な指導（手立て）	・創作活動に迷っている時には、他のペアの創作表現やアイデアを例に出し、どのような工夫があるのか気付かせ、創作表現の参考にするよう助言する。



## 2 研究協議

### ○授業者より

今回、ジャンプアップ研修としての研究授業で、題材を何にしようかととても悩んだ。初任研で箏を扱ったので和楽器をしようとは思っていた。今年も同じ箏をと考えたが、生徒の実態や環境も違うので、違うことをやった方が自分のためになるかと思い三線を選んだ。三線は毎年扱っていて、主に教科書の曲に取り組み、技術の習得を目指して取り組んでいる。ただ今回は研究授業をするにあたり、創作と表現領域を関連させることにした。



生徒にとっては「海の声」を演奏するだけでも十分だとは思いますが、より主体性を求めるという点において、自分が作った曲を演奏する活動に重きを置いた。しかし、実際にやってみると、和楽器の専門的な知識や理論をどう学ばせるのかという課題が出てきた。

## 〈参観者からの質問に対する回答〉

### ・音名（工工四）について

指導案の指導と評価の3・4時間目の「三線の歴史や特徴を理解し、楽器の音色に親しむとともに、三線の基本的な奏法を身に付け、楽曲を演奏する。」のところで、知識としては一通り学習している。ただ創作をしていく中で、ドレミの階名と工工四を対応させることは、生徒の実態に合わない判断した。葛藤はあったが、生徒がスムーズに取り組めるようにした。

### ・爪について

基本的な技能と知識の習得では、爪を使って演奏したが、生徒から「弾きにくい・扱いにくい」という声が多かったのでピックに変更した。音色が変わってしまう問題はあったが、演奏と創作を関連させようとするとその選択になってしまった。

### ・調弦について

私がやっている。生徒に一度はさせてみたが、すぐに弦が緩んだり巻き戻しがおこったりして難しい。直すために時間がかかり授業の進度が変わってくる。自分で直せる生徒は途中で音がずれると自分で調整している。

### ・グループ分けについて

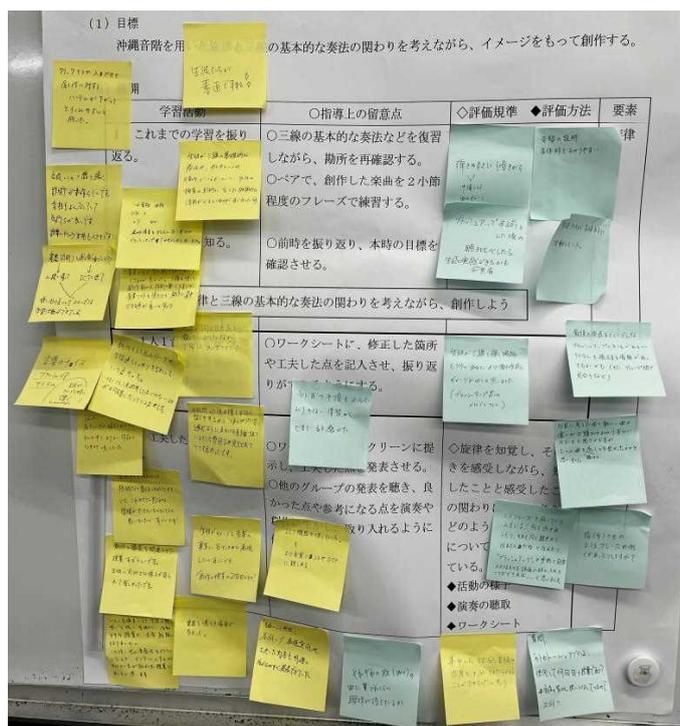
出席番号順に分けている。

### ・創作アプリについて

今回、教育芸術社のカトカトーンを使用した。昨年度まで使っていた Flat for Education で創作の授業をしたいと考えていたが、今年度は使えないことがわかった。そこで、総合教育センターの上原祥子指導主事に相談したところ、このカトカトーンを紹介してもらった。必要事項をメールで送ると URL が送られてくるので、それを生徒に伝えてアクセスするだけで使うことができる。手軽で便利だが、作ったファイルをアプリ上で共有ができないので、生徒とやり取りをするのは全て teams を使った。

### ・楽器について

三線は生徒の教材費から支払いをしてレンタルしている。楽器のレンタル期間と授業の進度を合わせるが大変だったが、生徒が思っていた以上に創作に取り組んでくれたので良かったと思う。



## ○グループ協議

### 〈1班〉

それぞれの学校で箏や三味線をしている。篠笛などより音が鳴りやすいという点で、ハードルが高くなく達成感も得られやすい。音階や奏法の決まりがあるので取り組みやすいのかもしれないという意見も出た。創作といえば、五線譜に音符を書いてという作業があるが、ドレミがわからない生徒にとっては大変なこと。それがアプリ上で楽譜にもしてくれるのは有り難い。

### 〈2班〉

レンタル楽器は弦が切れても修理してくれるなど、楽器についての情報交換ができた。三味線をするときも、導入曲は「さくらさくら」より阿波踊りの方が扱いやすいと教えてもらった。生徒にとって阿波踊りは、県外や海外に出たときに徳島らしさとしてアピールできる部分なのでぜひ取り入れたい。

### 〈3班〉

和楽器そのものについては、どこを目指して何を生徒たちに理解してもらうかは、校種や生徒の実態によって学校ごとによって変わってくるのかなと思う。楽器から生の音が1音出るだけで、目を見開いて反応を示す生徒もいるし、1曲演奏して達成感を味わいたいという生徒もいる。目の前にいる生徒を見て、どこのゴールを望んでいるかを推測して授業をすることが大切。今回の授業は、生徒の実態を見極められていて素晴らしかったと思う。創作もなかなか手を出しにくい分野だとは思いますが、楽譜が書けないから嫌い、書いたものを演奏できないから嫌だというのではなく、アプリを使うことで、自分が持ち合わせている力で曲っぽいものができていくという面では取り組みやすい。

### 〈4班〉

創作はやりたいけれどどこから始めたらいいいのか、どこまでできるのかという不安があり難しいところだと思う。アプリでは8分音符や2分音符の長さが視覚的にもわかり、楽譜が読めない生徒もどんどん幅広く、深く興味を持って取り組むことができる。これまでの授業を生徒の実態に合わせて少しずつのステップで丁寧に進められてきたので、アプリを使用しても抵抗なく取り組めたのだと思う。

### 〈5班〉

和楽器をするとなると、教員自身の技術が必要になりハードルが高い。その場合は専門の講師を呼んでみてもいいかもしれない。講師のアドバイスで問題なく弾ける場合もあるので、生徒の主体性を伸ばすには有効的な方法であると思う。アプリで全て解決するのではなく、最後は生の音に帰るといえるのは大事だと思った。



### ○助言者より（谷口 早代先生）

生徒に寄り添った授業で、初任研のころから準備が細やかな印象。領域を関連させたりカトカトーンを使用したりした授業は新しい試みで、大変勉強になった。関連させる場合は、題材の評価規準のところ、音楽を形づくっている要素を1つ貫かないといけない決まりがあり、梅本先生の場合は「旋律」を貫いている。先生も生徒も「旋律」にこだわっているのが、プリントの感想にも現れている。授業の中で、生徒が「弾きにくいところを弾きやすくするために」と発言したが、「旋律」に戻すために、「賑やかにするためにはどうしたらいい？」という助言をされていたのが素晴らしかった。本時の思考・判断・表現は「創作」なので、「音が難しい場合は変更して」とアドバイスするのではなく、「イメージにあったブラッシュアップをしよう」とする方が良いと思う。簡単にしたり弾きやすいようにブラッシュアップしたりするのは、次の時間の「技能」です。

評価の内容で、今回であれば大部分の生徒ができていたので、Aと判断されやすい。もう少し具体的に、「～のところを～のように」などと条件をつけてもいいかもしれない。

### 【高等学校学習指導要領解説・中学校の各教科等の重点 資料より】

目標の「音楽文化に親しむ」という点が薄れてきている。しかし梅本先生は、初任では箏、今回は三線を取り入れて、文化の継承・発展・創造と十分に関われていると思った。幼小中の違う校種で、どのようなことに重点を置いて取り組んでいるかを把握するのも大事であるため、このような機会に内容を確認する。いろいろ考えて関わらせてイメージさせて（思考・判断・表現）、次にそれをどのように表現するか（技能）という順番が大切。



### Ⅲ 第33回全日本高等学校声楽コンクール徳島県予選

#### 1 徳島県予選結果・講評

日 時 令和6年8月9日(金)

会 場 四国大学 音楽ホール

出場者  
(プログラム順)

氏名(学校・学年)	課題曲	自由曲	ピアノ伴奏
湯浅 友里菜 (名西高等学校2年)	秋の月	Lascia ch'io pianga (G.Handel 作曲)	丸岡 聖子
坂本 七菜 (徳島市立高等学校2年)	荒城の月 1・3番	AVE MARIA (L.Luzzi 作曲)	米田 佳子
高内 由梨杏 (名西高等学校3年)	秋の月	O primavera (P.Tirindelli 作曲)	丸岡 聖子
石津 なぎさ (徳島北高等学校1年)	秋の月	Per la gloria d'adorarvi (G.Bononcini 作曲)	米田 佳子
原口 りさ (鳴門高等学校2年)	納涼	Per la gloria d'adorarvi (G.Bononcini 作曲)	原口 絵里
瀬野 菜乃葉 (名西高等学校3年)	荒城の月 1・3番	Segreto (F.Tosti 作曲)	上原 慎太郎
三田村 結奈 (名西高等学校3年)	納涼	Vergin,tutto amor (F.Durante 作曲)	齋藤 美幸
毛利 心馨 (城ノ内中等教育学校6年)	荒城の月 1・3番	Rosa (F.Tosti 作曲)	米田 佳子

**結 果**

金賞 毛利 心馨(城ノ内中等教育学校6年)

銀賞 瀬野 菜乃葉(名西高等学校3年)  
三田村 結奈(名西高等学校3年)

銅賞 石津 なぎさ(徳島北高等学校1年)  
原口 りさ(鳴門高等学校2年)



今回出場された皆さんをみると、安定しているな、堂々と、そんなに震えているような様子でもなく落ち着いて演奏されていたなどと言うのが、まず感じたところです。

いくつか、個人的に感じたことを挙げます。息の流れがもう少しスムーズになると、もっと大きなフレーズが作れるだろうなという方。もう少し喉が開けば、ふわ〜っといきそうだなという方。全員に該当するわけではありませんが、そういう方もいらっしゃいました。

そして、このコンクールは、滝廉太郎の日本語の曲と、イタリア歌曲という組み合わせが多くなります。滝廉太郎の曲は、音域が割と中低音という曲が多いです。その中低音の響きと、自由曲でちょっと上の方の音域でふぁ〜っと歌ったときの響き、この響きの違いが結構大きい、という方もいました。

音域に依らず、母音に依らず、いろんな音域・いろんな母音がすべて均等に鳴らせられるような響きを(パワーではなく)、身につけてもらえるといいなと思います。

『固くて・暗くて・浅い』という声から『柔らかくて・深くて・明るい』という声へ、意識を変えて目指して行ってほしいなと思います。

それらを身につけるためにできるひとつの方法は、スマートフォンなどで録音・録画をする方法です。自分が聴いている自分の声と、他人が聴いている自分の声は、実はずいぶん違うと思います。特に声楽は「これ自分の声?!」という場合があります。そういうことがないように、自分で納得できるように、あるいは母音や音域によってこんなに響きが違うんだということを分かるために、“人の耳になって自分の声を聴く”ということをやってみてください。有効な方法ですとお薦めして、講評としたいと思います。



## 2 全国大会参加寄稿

「第78回 瀧廉太郎記念全国高校生声楽コンクール」に参加して

徳島県立城ノ内中等教育学校 6年 毛利 心馨

私は、10月18日～20日に大分県竹田市で開催された「第78回瀧廉太郎記念全国高校生声楽コンクール」に出場しました。この素晴らしい大会に光栄にも3年連続で出場でき、また、美しく豊かな響きのホールで再び歌うことができたことは、非常に貴重な経験となりました。さらに、他の出場者との交流の時間も多くあり、さまざまな地域から参加された方々とコミュニケーションを取ることができ、多くの刺激を受けました。

今年は本選に進出し、本番では、自分でも納得のいく演奏を行うことができました。そして、審査の結果、『優秀賞』と今年度から新設された『瀧廉太郎顕彰賞』をいただくことができました。

ご指導いただいた先生方、また、お世話になった先生方、本当にありがとうございました。



## Ⅳ 令和6年度 徳島県学校音楽祭(器楽合奏の部)

### 徳島県学校合奏コンクール

- 1 日 時 令和6年7月30日(火) 31日(水)
- 2 会 場 あわぎんホール
- 3 審査員 四国大学名誉教授 石川 透  
 徳島県立総合教育センター 指導主事 上原 祥子  
 フルート奏者 川人 伸二  
 瀬戸フィルハーモニー交響楽団 仙波 克久  
 徳島県邦楽協会会長 三木 千佳子 (五十音順)

#### 4 プログラム

学校	指揮者	演奏形態	曲名	作曲者
名西高等学校	/	和楽器	吟遊歌	沢井 比河流
阿波高等学校	橋本 二千翔	合奏小編成	ブルックグリーン組曲	G.ホルスト
徳島文理中学校 高等学校	/	合奏小編成	Raise Your Hats!より 1.Sombrero 2.Fez 3.Stetson 4.Top Hat	J.ケアリー
城ノ内中等 教育学校	坂東 遙	合奏小編成	「ムーアサイド組曲」より 1. スケルツォ 3. 行進曲	G.ホルスト
名西高等学校	井上 郁代	合奏小編成	弦楽のためのセレナード	E.エルガー
名西高等学校	丸岡 聖子	吹奏楽(音楽祭のみ参加)	さくらのうた	福田 洋介
海部高等学校	梅本 香織	金管バンド・吹奏楽	小さな楽団のための組曲第二番	高橋 宏樹
板野高等学校	小谷 直也	金管バンド・吹奏楽	花の香	天野 正道
川島中学校・高等学校	岸 直美	金管バンド・吹奏楽	ほたるのひかり	福田 洋介
徳島市立高等学校	岸 秀典	合奏大編成	歌劇「イーゴリ公」より ダッタン人の踊り	A.ボロディン
城東高等学校	葉久 かおり	合奏大編成	スラブ行進曲 作品31	P.チャイコフスキー

令和6年度徳島県学校音楽祭（器楽合奏の部）は、徳島県学校合奏コンクールを兼ねて、7月30日（火）～31日（水）の2日間、徳島市あわぎんホールで開催されました。30日には小学校2校と高等学校・中等教育学校11校、31日には中学校17校の計30校が、日頃の成果を熱心に発表されました。

高等学校部門の内訳は、和楽器1校、合奏小編成（20人以下）4校、合奏大編成（20人以上）2校、金管バンド・吹奏楽4校でした。現在の部門別によるコンクール実施となってから、高等学校の部門では初めて和楽器部門への参加があり、様々な演奏形態による演奏を披露してくれました。

今夏は、昨年度にも増して暑さが一層厳しいものでした。そのような中、本コンクールに向けて、練習時間や形態を工夫していただきながら熱心にご指導くださった指導者の皆様、エネルギーで瑞々しい素敵な表現をし、コンクールを盛り上げてくれた高校生の皆さんに厚く御礼申し上げます。

高等学校部門の演奏について、当日審査をされた先生方による講評を参考にしながら、参加校の演奏について振り返ってみたいと思います。

### 1 名西高等学校〔和楽器〕

同じ音型を繰り返しながら盛り上がっていく効果を十分に生かすことができたと感心しました。また、少しずつ変化する流れを音色の工夫により、丁寧に表現できていました。音の粒もしっかりと感じられ、その中に力強い音も加わり、1つのまとまった世界観を感じることができました。

### 2 阿波高等学校〔合奏小編成〕

それぞれの曲趣に合った表現の工夫がされており、若々しく爽やかな演奏でした。長い音符が、身体全体を使って演奏できると、さらに豊かな響きになり、しっかりと表情を持って表現できるようになると思います。一人ひとりの力が十分に揃っていなければできない楽曲です。皆さん、よく頑張っていました。

### 3 徳島文理中学校・高等学校〔合奏小編成〕

合奏の土台であるハーモニーを大切にしているため、小さい音量の楽器であるにも関わらず、響きが会場いっぱいに響き渡っていました。音色がまとまっており、各パートのバランスも良く、それぞれの楽曲の雰囲気表現できていました。テンポにもう少し変化があると良いと思います。選曲も良かったです。

### 4 城ノ内中等教育学校〔合奏小編成〕

音楽的な表現の方向性を大切に、統一された説得力のある演奏でした。おそらく入学してから初めて楽器を手にした人が多いのではないかと想像しますが、難しい曲に挑戦されました。弓いっぱいを使い、フレーズのソルフェージュ、しっかり正しい音程が表現できるよう、更に練習を重ねてください。積極的な好演でした。

## 5 名西高等学校〔合奏小編成〕

積極的な演奏で、音楽性に溢れた演奏でした。バランスやリズム感も良かったです。音程を大事にし、練習を積み重ねられてきたことが伝わりました。一人ひとりが身体を使い、楽器をしっかり鳴らし f の方向が更に広がることで、p - f の幅が広がると良いと思います。統一感があり、よく練習できていました。

## 6 名西高等学校〔金管バンド・吹奏楽〕

明るい音色でまとまりのある合奏でした。冒頭のトランペットソロ、またホルンの音色が素晴らしかったです。さらに、ソロは p の表現であっても、しっかりと意志をもち、演奏できると良いと感じました。音程を充実させ、さらに豊かな響きを作ってください。思わず涙の出るような良い演奏でした。

## 7 海部高等学校〔金管バンド・吹奏楽〕

上手に楽器や音楽を編成、構成され、まとまりのある演奏でした。曲に合った表現で各楽器の音がよく響いており、伸び伸びとした豊かな響きでした。旋律パートがしっかり聞こえるように、支えのパートがバランスをとれるようになると、さらに良くなると思います。譜面がしっかりと読めており最後まで丁寧な音楽作りができていました。

## 8 板野高等学校〔金管バンド・吹奏楽〕

複雑な音の重なりやリズムをよく表現し、曲の雰囲気をつかえた演奏でした。リズムやテンポは素晴らしいものを持っていますので、さらに、音程やハーモニーをしっかりと合わせて豊かな響きづくりを目指してください。クライマックスへ向けての音楽の作りが、とても感動的でした。

## 9 川島中学校・高等学校〔金管バンド・吹奏楽〕

一人ひとりがしっかりと演奏できており、少人数でしたが、人数以上の演奏効果を感じることができました。表で動くパートに対して、裏で支えるパートのバランスが所々気になりましたので、しっかり整え、良い響きをさらにつくってください。p - f が幅広く使えており、豊かに表現できていました。

## 10 徳島市立高等学校〔合奏大編成〕

躍動感に満ちた音楽で、全体の音楽の構成やテンポ等、素晴らしかったです。冒頭の木管ソロも素晴らしかったです。また、それぞれのパートが役割を的確に担うことができおり、統一感があり、オーケストラが1つになっていました。音楽表現への意欲がストレートに表れた演奏でした。

## 11 城東高等学校〔合奏大編成〕

各楽器がよく鳴り、積極的な表現で、聴衆を飽きさせない演奏でした。明確に聞こえてとても良いのですが、音の発音部が少し目立ちすぎているようにも感じました。また、会場が狭く響きも少ないので、音符は若干長めに演奏すると、さらに良くなると思います。冒頭部分がメランコリーになり過ぎず、颯爽とした素敵なスタートが印象的でした。

V 令和6年度 徳島県学校音楽祭(合唱の部)  
第91回NHK全国学校音楽コンクール徳島県大会

- 1 日 時 令和6年8月20日(火)
- 2 会 場 藍住町総合文化ホール
- 3 課 題 曲 「<sup>あした</sup>明日のノート」  
作詞：俵 万智 作曲：松下 耕
- 4 審 査 員 徳島県立総合教育センター 指導主事 上原 祥子  
元 徳島文理大学 教授 河口 雅子  
声楽家 戸邊 祐子  
香川県合唱連盟 理事長 前田 朋紀  
作曲家 松岡 みち子 (五十音順)

5 プログラム(自由曲)

校 名	自由曲 作詞・作曲	指揮者	伴奏者
徳島市立高等学校 (混声三部)	初心のうた 作詞 木島 始 作曲 信長 貴富	岸 秀典	美馬 かおり
名西高等学校 (女声三部)	女声合唱組曲「朝」から 朝ゆえに 作詞 谷川 俊太郎 作曲 瑞慶覧 尚子	森本 奈央子	上原 慎太郎
城東高等学校 鳴門高等学校 (女声三部)	女声合唱とピアノのための組曲「空をかついで」から 空をかついで 作詞 石垣 りん 作曲 三宅 悠太	葉久 かおり	浅井 久視子
城北高等学校 (混声三部)	混声三部合唱とピアノのための「なんとなく・青空」から あいたくて 作詞 工藤 直子 作曲 相澤 直人	石川 宏美	三村 加奈
徳島北高等学校 (混声三部) (混声四部)	混声合唱曲集「女性詩人による三つの譚歌」から 天空歌 作詞 永瀬 清子 作曲 信長 貴富	榎 一二三	角 多恵子



令和6年度徳島県学校音楽祭〔合唱の部〕は、第91回 NHK 全国学校音楽コンクール徳島県大会と兼ねて、8月20日（火）に藍住町総合文化ホールで開催されました。コンクールには、小・中・高等学校あわせて14校の参加があり、午前は3校の小学校と4組5校の中学校、午後は5組6校の高等学校による演奏が披露されました。また、コンクールに続いて行われた音楽祭は、午前に出場した小学校3校が参加し、これまでの練習の成果を熱心に発表されました。

高等学校では全ての参加校が他のコンクールに続いての参加となり、練習においてはご苦勞も多かったことと思いますが、それを感じさせない魅力溢れる歌声を披露してくださいました。本コンクールに向けて、熱心にご指導くださった指導者の皆様と若々しい素敵な演奏を披露してくれた高校生の皆さんに厚く御礼申し上げます。

NHK 全国学校音楽コンクール2024年度課題曲のテーマは「チェンジ」。高等学校の部の課題曲は、俵 万智作詞、松下 耕作曲の「明日のノート」でした。

高等学校部門の演奏について、当日審査をされた先生方による講評を参考にしながら、参加校の演奏について振り返ってみたいと思います。

### 1 徳島市立高等学校

オーケストラ部ということで、楽器の演奏もしていることが合唱にも生かされた演奏でした。（課題曲）表現の幅が広く、前半のジタバタ感が実感を伴って歌われており、説得力がありました。

少し言葉がにじむところがあるので、母音唱での練習を取り入れるとさらに素敵な演奏になると思います。

（自由曲）選曲が声に合ったものでした。ユニゾンが美しく、また、各声部の関係性が考慮されており、ハーモニーも大変充実していました。少し荒く感じる部分もありましたが、それがまた良い味になっていました。

### 2 名西高等学校

第一声から思わず声を上げたくなる程、素晴らしい声で、粒もよく揃っていました。

（課題曲）明るい響きでしっかりと歌えていました。色々な場面を巧みに表現し、歌詞の持つ面白さや言葉もニュアンスが十分に表現されていました。少し母音が聞き気味になるので注意が必要です。

（自由曲）冒頭の不協和音の響きがよくまとまっており、美しかったです。フレーズ感もしっかりと深く、感動的でした。無伴奏ゆえに、それぞれの母音のアゴーギグがよく分かりますので、母音の色づけを工夫するとさらによくなります。

### 3 城東高等学校・鳴門高等学校

素直な声の素敵な女性合唱でした。明るい声で全体に新鮮感が醸し出されていました。

（課題曲）細かい曲想の変化をしっかりと表現できていました。音程も良かったです。優しく柔らかい響きの歌声ですが、もう少し表現の幅を広くするとさらに良くなると思います。

（自由曲）各声部の動きを理解して表現できており、美しく曲全体が流れ、響きが大変充実してい

ました。pの表現も母音に支えがあり素敵でした。欲を言いますと、さらに迫力のある演奏にチャレンジしてみてください。

#### 4 城北高等学校

少人数でしたが、バランスを考え、よく表現できており素敵な演奏でした。

(課題曲) 詩の言葉の表現をよく捉え、一人ひとりが共感しながら歌っていることが感じられました。

多彩な表現で曲がつくりあげられていました。母音を今一度見直したり、身体を使い歌えるようになったりすると、さらに安定すると思います。

(自由曲) 優しさに溢れる演奏でした。選曲がこのメンバーによく合ったものでした。曲全体の流れも良かったです。もう少しfが欲しいと感じましたので、fの表現を研究してみてください。

#### 5 徳島北高等学校

全体的によくまとまっており、素敵な声の合唱でした。

(課題曲) バランスの良いアンサンブルで、曲想のコントラストも的確でした。pの表現も丁寧で、言葉も良く聞こえてきました。下降する音型の際、少し曖昧に聞こえてくることがありましたので、2番目の音に特に注意してみてください。

(自由曲) 曲想に変化があり大変な曲ですが、立体感のある表現が素敵でした。男声が4名でしたが、安定していました。皆さんの良いところが出る、とても声に合った選曲でした。



## VI 令和6年（2024年）度 人権に関する児童生徒の作品

### ●作詞作曲部門 県知事賞

徳島県立城東高等学校 1年

にしたに みう  
西谷 美海

### 『新たな一歩』

#### 【作詞・作曲に際して】

この曲は「人権尊重・ふれあい」を主なテーマにして創りました。歌詞と同じような経験をしている人が、自ら話しかける勇気を持つきっかけとなれば良いな、という思いを込めました。旋律は2声の合唱にし、この歌詞の主人公を主旋律、主人公に寄り添った人を副旋律に見立て、2つの旋律が寄り添い、優しく響くようにしました。

### 『新たな一歩』

周りに合わせて 過ごしてきた毎日  
自分を出せずに いつも作り笑い  
それは とても辛くて苦しかった それでも  
孤独になるのが怖くて 進めなかった  
ある日 勇気を出し あなたに話しかけた  
あなたは 私を受け入れてくれて うれしかった  
今でも 昔の事で 胸が痛むけれど  
今は 楽しく笑えるから とても幸せだよ

知事賞受賞曲は、あいぽーと徳島の  
ホームページから  
お聴きいただくことができます。

<https://www.aiport.jp/katsudo/sonota/page04.html>



♩ = 85 F C Dm Am B C<sup>trio4</sup> C  
 まわり  
 5 F Em<sup>7(b9)</sup> A<sup>7</sup> Dm Dm<sup>trio</sup> B  
 にあ - わせて すこしてきた まいにち  
 9 Am<sup>7</sup> Dm<sup>7</sup> Am<sup>7</sup> Dm<sup>7</sup> G<sup>7</sup> C<sup>trio4</sup> C  
 しふんを たすかにいっもつくりわらい それほ  
 13 F Em<sup>7(b9)</sup> A<sup>7</sup> Dm Dm<sup>trio</sup> B  
 とでもつらくてくもしかった それでも  
 17 B C Am<sup>7</sup> D<sup>7</sup> Gm<sup>7</sup> C<sup>7</sup> F  
 く になるのが こわくて すずめ なか - った あるひ  
 21 B C Am<sup>7</sup> D<sup>7</sup> Gm<sup>7</sup> C<sup>7</sup> F F<sup>7</sup>  
 ひつ きをたし あなたにはなし かけた あなた

25 B C A<sup>7</sup> D G<sup>7</sup> C<sup>trio4</sup>  
 はわたしをうけいれてくれてうれしかった  
 29 C F Em<sup>7(b9)</sup> A<sup>7</sup> Dm Dm<sup>trio</sup>  
 いまでも むかしのことでもむかいた むけれ  
 33 B B C Am<sup>7</sup> D Gm<sup>7</sup> C  
 ど いまは たのしくおらえるから とても しあわせだ  
 37 F F C Dm Am B  
 よ  
 41 Bm C F



## ●作詞作曲部門 教育長賞

### 徳島県立名西高等学校 23HR（芸術科音楽コース2年生）

#### 『いのち』

#### 【作詞・作曲に際して】

この曲の作詩・作曲者の23HRの長尾さんは、「親と子どもの両方の気持ちを考え」、「命の大切さが伝わってほしい」との想いでこの曲を作ったそうです。そしてこの曲を作ることにより、改めて自身の親に対して感謝の気持ちが芽生え、聴いた人にも親への感謝の思いを感じてほしいそうです。また、クラスみんなに歌ってもらった時はとても感動したそうです。

#### 『いのち』

あなたが生まれたこの命はいくつもの奇跡をつくった  
あなたがいたからこそ強くなれた。ありがとう私の愛おいしい子よ  
大丈夫1人じゃない、そばにいる  
つらい時も口ずさむ愛のメロディーがあふれるのよ  
これから始まる、未来のストーリー、あなたの笑う声が聞こえた（親から子へ）

わたしが生まれた意味、それはパパとママを笑顔にすること  
泣いた日も嬉しかった日も、いつもそばで支えてくれたね

ママの口癖はいつも「あなたはたくさんの人に愛されている」  
いまならね、分かる気がする幸せを願う気持ち  
生きる喜びがあふれ出すの。幸せよ  
生まれて始まる、私のストーリー、輝くのよ、私、頑張れ（子から親へ）

あなたの進む道険しくて長いけれど強くね、生きるね  
やっと会えた日から今日までの物語ずっとこれからも続くの（親と子供の気持ち）

わたしたちはあなたの描く未来を信じて（親からの気持ち）  
私、頑張るの。見守っててね（子どもからの気持ち）



●作詞作曲部門 理事長賞

徳島県立徳島商業高等学校 1年

もりなが うめたろう  
森永 梅太郎

『苗床』

【作詞・作曲に際して】

この曲は、「苗の成長と農家との助け合い」をテーマに作詞・作曲しました。  
いじめられてる人を苗に置き換えて、農家と共に生きて成長していく姿を歌詞にして、助け合いの温かさを感じさせてつくりました。

演奏では、盛り上げのためのドラムを添えることで、ずっと後ろから支えてくれていることを表現しました。

『苗床』

暴力暴言 いじめでさ  
春から種が 傷ついでる  
枯れる前に僕たちに 教えてよ  
君を助けるから

夏が来たら 発芽していく  
水撒き合い 共に生きて  
秋が来たら 彩ってく  
新たな花 咲かせるために

手を取り合って 温もり合って  
繋がり合って 私合って  
冬の厳しい 寒さも耐えて  
友情のつぼみが 親友の花に

ああ涼しい春風 またいじめられるかな  
って思わないで 僕たちそばにいるから

喜び合って 楽しみ合って  
悲しみ合って 助け合って  
ひとりじゃないから みんながいるから  
前向きに行こう 我慢せずに

# 苗床

作詞・作曲 森永梅太郎

$\text{♩} = 108$

ぼうりぶ ぼうげーん いじめーでさー はるかーらたねがーさず ついてーいるー  
かれるーまえにぼくたーちにおしえてよー きみーをーたすける から  
なつーがーきたら はつーがーしてく みずーまーきあい ともーにー生きて  
あさーがーきたら いろーどーってく あらーたーなはな 咲かーせーるため に  
てをとりあーって ぬくもーりあーって わたしーあーって つながーりあーって  
ふゆのきびしーい さむさーもたーえて ゆうじょうのつぼみーが しんゆうのはーなに  
あ あすずしいー はるかぜまた いじめられーるかなっ  
て おもわないでー ぼくたち そぼにーいるから  
よろこびあーって たのしーみあーって かなしみあーって たすけーあーって  
ひとりじゃないかーら みんなーいるーから まえむきにいこーう がまんーせずーに

## Ⅶ 実践報告

### 1. フレッシュ研修Ⅰを終えて

阿南光高等学校 三木野 喜子

この1年を振り返ると、改めて気づきや学びの多い貴重な1年であったと感じています。指導教諭である常陸先生の素晴らしい授業構成を目の当たりにし、初めは学ぶ有り難さと同時に、強いプレッシャーを感じていました。いざ自分の授業となると、肩に力が入って空回りしては、自己嫌悪に陥る日々でした。そんな時でも的確なアドバイスを下さり、根気強く指導して下さった常陸先生をはじめ、授業研修で熱心に授業作りの基本をご指導下さり、「自分らしい授業を」と励まして下さった指導主事の上原祥子先生、研修や行事で顔を合わせた際には、声を掛け励まして下さった先生方、そして、こんな私の授業に笑顔で付き合ってくれた生徒たちにも、感謝の気持ちでいっぱいです。

この1年、試行錯誤の連続でしたが、音楽のために悩み試行錯誤する日々は、何よりの喜びでもありました。生徒が本来持つ力を引き出せるかどうかは、自分の関わり方次第ということにも、改めて気付かされました。

今後も、生徒たちが音楽の喜びを感じながら、人として成長できるような授業を展開していくために、日々試行錯誤を重ね「自分らしい授業」とは何なのかを追い求めていきたいと思えます。今後ともご指導よろしくお願ひいたします。

### 第1学年 音楽科学習指導案

令和6年11月7日（木）第5校時

阿南光高等学校1年1組10名

指導者 三木野 喜子

1 題材名 ギター・アンサンブルを楽しもう！

#### 2 題材の目標

- (ア) 曲想とギターの音色や奏法との関わり及び様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解するとともに、創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (イ) ギターの音色や響き、テクスチュアを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもつ。(思考力、判断力、表現力等)

- (ウ) 曲想とギターの色や奏法との関わりに関心を持ち、アンサンブルを楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組み、音楽を愛好する心情を養う。  
(学びに向かう力、人間性等)

### 3 教材 MOUSA 1 「第三の男のテーマ」

#### 4 題材について

##### (1) 生徒の実態

音楽選択者の男子10名のクラスは、活発で明るく、積極的に表現活動に取り組んでいる。4月に行ったアンケートでは、「ギターを弾いてみたい」という生徒がクラスの半数以上おり、器楽演奏に対しての関心も高い。1学期には、曲にふさわしい発声などの歌唱表現の技能を身に付けるとともに、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解し、表情豊かに歌うことを意識してきた。また、リズム・アンサンブルでは、リズム表現を通して、他者と協働しながら演奏を工夫していく活動に取り組んできた。

ギター・アンサンブルの演奏では、各声部の役割を理解し、全体の響きやハーモニーをイメージしながら、自分や他者の音色に耳を傾け、調整する技能を身に付けさせたい。これらを通して、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫する力が身に付くよう指導したい。

##### (2) 教材について

教材曲として扱う映画「第三の男」テーマ曲は、ウィーンを象徴する民族楽器ツィターによって演奏される。軽やかなリズムで明るく簡明な旋律で、親しみを持ちやすい楽曲である。メロディーラインは1本の弦だけで弾くことができ、他のパートも平易に演奏できることから、ギター学習の導入に適した教材である。また、旋律・和音・低音と各声部の役割も理解しやすく、アンサンブル演奏を通して、声部の役割を踏まえた音量バランスの調整や、音色の工夫等を学ぶことが期待できる作品である。

##### (3) 指導にあたって

本題材では、ギターに初めて触れる生徒が、楽器の基本的な奏法を身に付けながら、ギターの音色やハーモニーに耳を傾け、アンサンブルの魅力を味わうことがねらいである。旋律、和音、低音の各声部の役割に着目し、それぞれの役割にふさわしい音色を創意工夫できるよう指導していく。創意工夫していく過程で、さまざまな奏法を試したり、グループで意見交換をしたりしながら練習を行い、自分の出したい音色をイメージしていけるよう指導していく。また、中間発表の場を設け、相互評価できるよう演奏を録画し、改善点や表現の工夫をグループで共有する。その際、中間発表からの変化を実感し、次の活動に繋がるようポイントを絞った練習（音色・声部の役割）ができるよう配慮する。音の響きやハーモニーに耳を傾けながら、自己のイメージする音色を探していく過程を楽しみ、仲間と音を重ねる喜びが感じられるよう指導していく。

## 5 本題材で扱う学習指導要領の内容

### A 表現

ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること。

イ (イ) 曲想と楽器の音色や奏法との関わり

(ウ) 様々な表現形態による器楽表現の特徴

ウ (ア) 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能

(ウ) 他者との調和を意識して演奏する技能

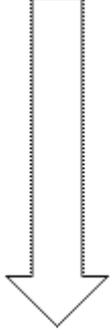
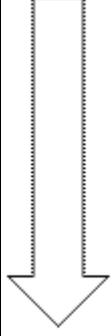
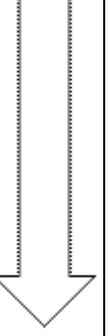
[共通事項] (1)

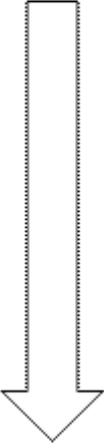
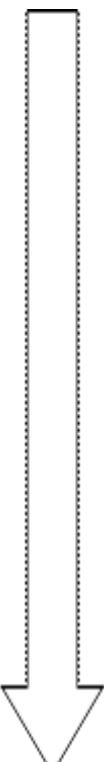
(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音色」、「テクスチャ」)

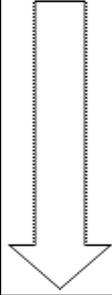
## 6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知① 曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて理解している。</p> <p>知② 様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解している。</p> <p>技① 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、演奏で表している。</p> <p>技② 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な他者との調和を意識して演奏する技能を身に付けている。</p>	<p>思 ギターの音色や響き、テクスチャを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫する。</p>	<p>態 曲想とギターの音色や奏法との関わりに関心を持ち、アンサンブル活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。</p>

7 指導と評価の計画（本時 8 / 10 時間）

時	◎ねらい ●学習内容 ・学習活動	評価（◆評価方法）		
		知・技	思	態
1	◎さまざまな撥弦楽器の比較鑑賞を通して、楽器の音色や奏法との関わりに関心を持ち、ギターの基本的な奏法を身に付ける。			
2	<p>●曲想と楽器の音色や奏法との関わりに着目し、それぞれの違いを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ギター（クラシック・フォーク・エレクトリック）、ツイーター、三味線の演奏を鑑賞し、それぞれの楽器の特徴やよさについて意見交換する。</li> </ul> <p>●ギターと自分の生活や社会との関わりについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段耳にする楽曲の表現形態や、ギターのよさについて意見交換する。</li> </ul> <p>●ギターの構造について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各部の名称や弦の音を確認する。</li> </ul> <p>●ギターの調弦方法を身に付け、基本的な奏法を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チューナーの使い方、調弦方法を確認しながら、全員でチューニングしていく。</li> <li>・模範演奏や動画で右手の指使いや奏法を確認し、開放弦でアルペジオを弾く。</li> <li>・ワークシートに自己評価を記入した後、ペアで相互チェックを行う。</li> </ul>			
3	◎TAB譜の読み方や左手の奏法を理解し、旋律を演奏する。			
4	<p>●TAB譜で簡単な旋律を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・TAB譜の読み方、左手の使い方を確認する。</li> <li>・左手の指使いを確認し、1弦ずつ半音階を弾く。</li> <li>・TAB譜を見ながら「よろこびの歌」「カノンによるギター・エチュード」を演奏する。</li> </ul> <p>●TAB譜の記譜法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ギターを使って簡単な旋律を創作する。</li> <li>・ペアで役割分担し、弾いた旋律を交代で記譜していく。</li> </ul>			

5	<p>◎ギターの音色と奏法の関わりを理解して、出したい音色のイメージをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●音の重なりに耳を傾けながら「カノンによるギター・エチュード」を演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで「カノンによるギター・エチュード」を演奏する。</li> <li>・カノンで演奏した時との違いについて意見交換する。</li> </ul> </li> <li>●ギターで演奏したい音色のイメージをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな音色を出したいか考え、意見交換する。</li> <li>・アポヤンド奏法，アルアイレ奏法の音色の違いを聴き比べる。</li> <li>・さまざまな奏法を試しながら，音色の違いをワークシートに記入する。</li> <li>・ペアで互いの音色を聴き合い，相互評価しながら改善点や出したい音色のイメージを探す。</li> </ul> </li> </ul>	<p>◆ワークシート ◆観察 知①</p>	<p>◆ワークシート ◆観察 思</p>	
6	<p>◎各声部の役割について理解し，アンサンブル演奏のイメージをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●各声部の役割について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・主旋律，ハーモニー，ベースのある楽曲を鑑賞し，各声部の役割について考え，全体で共有する。</li> <li>・「第3の男のテーマ」の模範演奏を聴き，各声部を練習する。</li> </ul> </li> </ul>	<p>◆ワークシート ◆観察 知②</p>		
7	<p>◎アンサンブル演奏のポイントを理解し，各声部の役割にふさわしい表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●息の合った演奏をするためのポイントを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・タイミングの合わせ方について意見交換する。</li> <li>・グループに分かれ，パートを交代しながら練習する。</li> <li>・グループ内で担当パートを決める。</li> </ul> </li> <li>●各声部にふさわしい音色や音量バランスについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな音色や音量バランスを試しながら，各声部にふさわしい音量について意見交換する。</li> <li>・音量バランスを考え，パート人数や弾き方を再検討する。</li> </ul> </li> <li>●これまでの演奏を振り返り，曲にふさわしい表現を工夫しながら演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の演奏を振り返りながら，グループで練習する。</li> <li>・改善点や工夫点を発表してから演奏する。</li> <li>・発表を通して相互評価し，次の演奏に生かす。</li> </ul> </li> </ul>	<p>◆ワークシート ◆観察 技①②</p>	<p>◆ワークシート ◆観察 思</p>	

◎アンサンブル演奏の楽しみを共有し、本題材の学習内容を振り返る。			
10	<p>●これまでの学習を振り返りながら、アンサンブル演奏の楽しみを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・候補曲の中から選曲し、アンサンブル演奏にふさわしい表現を意見交換しながら演奏する。</li> <li>・他の楽器や歌も組み合わせてアンサンブル演奏を行う。</li> </ul>		<p>◆ワークシート ◆観察 態</p>

## 8 本時の学習

### (ア) 目標

ギターの音色や各声部の音量バランスに着目し、曲にふさわしい表現を創意工夫する。

### (2) 展開

学 習 活 動	○指導上の留意点	◇評価規準	要素
1 これまでの学習を振り返り、本時の目標を確認する。	○各声部にふさわしい音色や音量バランスについて、前時の内容を確認する。 ○本時の目標と流れを確認する。		音色 テクスチャ
	それ ぞれのパートにふさわしい表現を	工夫して演奏しよう	
2 各声部の役割にふさわしい表現を考えながら演奏する。	○グループに分かれてパートの確認と練習を行う。		
3 相互評価を行い、各声部の役割を生かした表現にするための工夫を考える。	○お互いのグループの演奏を聴き合い、録音を確認する。 ○声部の役割を手掛かりに、音色や音量バランスの改善点をワークシートに記入し、全体で共有する。	☒ ギターの音色や響き、テクスチャを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫する。	
4 グループで演奏を工夫しながら発表に向けて練習する。	○改善点についてグループで話し合い、次の発表に向けて練習する。		

### (3) 評価及び指導 (手立て)

(思考・判断・表現)

A (十分満足できる) と判断される具体的な状況	曲想とギターの色や奏法との関わりを理解し、各声部の役割にふさわしい音色や音量について、自己のイメージをもって演奏に生かし、具体的にワークシートに記入している。
B (おおむね満足できる) 状況を実現するための具体的な指導 (手立て)	ギターの色や奏法との関わり、各声部の役割にふさわしい表現について、全体で共有したことを確認する。また、例示や対話を通して、音色や音量バランスに着目していけるよう促す。

## 2. フレッシュ研修Ⅱを終えて

名西高等学校 丸岡 聖子

校内の研究授業の題材は、6月に篠笛「鼓動の舞」、10月に歌唱「美女と野獣」で行った。「鼓動の舞」では、篠笛の演奏方法や口唱歌について学び、グループ発表を行ったり、メタモジクラスルームで感じたことを共有したりした。阿波踊りでも使われている篠笛であるが、演奏をする際に、息を入れる角度いや息の速さが大切であり、演奏方法のコツをすぐに掴める生徒と、時間がかかる生徒がいた。上手に吹くことが難しい生徒は、大太鼓のパートを担当させ、大太鼓の口唱歌についても学習した。授業後、篠笛に興味を持った生徒の2人が阿波踊りの連に入り、お盆に篠笛を演奏していた。授業で学んだことを自ら深く学んでいる様子を見て、とても感動した。

「美女と野獣」は、名高フェスのミュージカルで「美女と野獣」を行うため、表現方法の工夫について自ら考えることができるようにするために題材設定を行った。楽譜を拡大コピーをして、意見の共有をしやすいしたり、メタモジクラスルームを使用して意見の共有をしやすい、フォームアンケートを活用するなどして、授業の目的を明確にし、深い学びにつなげられるように工夫を行った。

企業研修では徳島ランドリーさんに伺い、2日間おしぼりの集荷を手伝わせていただいた。1日目は県南、2日目は県西の飲食店や老人ホームに行き、依頼されている量のおしぼりを届けたり、使用済みのおしぼりを回収するなどした。外食をする際に何気なく使用しているおしぼりであるが、綺麗に使われているお店もあれば、お店の掃除に使われたのかと思うくらい汚れているおしぼりもあった。汚れが酷いものは、洗浄できないため、捨ててしまうことになるとおっしゃっており、「契約してもらっているから強く言えない」というもどかしさがあるということも教えていただいた。企業研修がなければ、知ることがなかった職種を体験でき有意義な時間であった。

学校では2年生の担任として、学級経営について考え、音楽史、理論、聴音、演奏研究、応用の音楽、ピアノのレッスンなど、専門的な授業を行うために教材研究を行った。たくさんの人に支えられ、恵まれて過ごした2年目であった。これからも、周囲の方への感謝を忘れず、精進していこうと思う。

### 音楽科（演奏研究） 学習指導案

令和6年10月29日第1校時  
名西高等学校23 HR 音楽コース15名  
指導者 丸岡 聖子

1 題材名 表現を工夫して「美女と野獣」を歌唱しよう

2 題材の目標

- (1) 「美女と野獣」の演奏における客観性と多様性について理解を深めるとともに、理解したことを生かした歌唱表現をするために必要な技能を身に付ける。(知識及び技能)



最終時の練習動画を比較させる。

5 本題材で扱う学習指導要領の内容

演奏研究

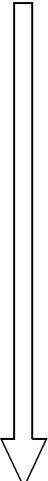
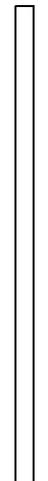
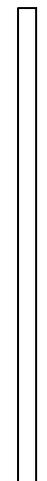
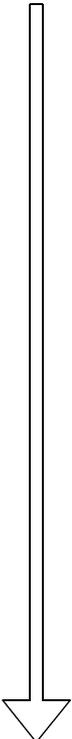
(2) 作曲家の表現上の特性を踏まえた解釈及び演奏に関する研究

6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b>演奏における客観性と多様性について理解を深めている。</p> <p><b>技</b>理解したことを生かした歌唱表現をするために必要な技能を身に付けている。</p>	<p><b>思</b>「美女と野獣」の音楽の様式を踏まえた演奏に関する思考力、判断力、表現力を身に付けている。</p>	<p><b>態</b>音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞しようとしている。</p>

7 指導と評価の計画(本時3/3時間)

時	◎ねらい ●学習内容 ・学習活動	評価(◆評価方法)		
		<b>知</b> ・ <b>技</b>	<b>思</b>	<b>態</b>
1	◎イメージをもって歌唱練習を行い、歌唱動画を撮影する。			
	<p>●「美女と野獣」を聴き、どのようなイメージをもったか共有し、自分のパートの歌唱練習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「美女と野獣」のアニメの歌唱シーンを鑑賞する。</li> <li>・どのようなイメージをもったか個人で考え、グループで共有しワークシートに記入する。</li> <li>・グループに分かれ、演奏するパートを決める。</li> <li>・歌唱練習を行い、演奏動画をグループで撮影する。</li> </ul>	↓		↓

2	<p>◎物語のあらすじや歌詞の内容，登場人物の心情などを深く理解し，曲にふさわしい表現を考える。</p> <p>●歌詞の内容を理解し情景を想像する。転調の効果を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞を朗読することで，歌詞を理解し，情景を想像する。</li> <li>Es-durとF-durの音階を弾くことで調性の違いを感じ取り，イメージをグループ内で共有する。</li> <li>Es-durの効果は愛や神との心地よい対話，F-durの効果は好意と安らぎという，E. T. A. ホフマンの調性格論を理解する。</li> </ul> <p>●アニメ，実写版，ミュージカルの歌唱シーンを鑑賞し，曲にふさわしい表現方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アニメ，実写版，ミュージカルの「美女と野獣」の歌唱動画を鑑賞する。</li> <li>鑑賞した際に感じたことを共有し，プリントに記入する。</li> <li>どのように表現の工夫を行うか考え，歌唱練習を行う。</li> </ul>	 <p>知 ◆ワークシート</p>	 <p>技① ◆観察</p>	 <p>愚 ◆聴取・観察 ◆ワークシート</p> 
3	<p>◎転調の効果や速度や強弱などの表現上の工夫を生かし，イメージをもって歌唱表現する。</p> <p>●グループで歌唱練習をし，発表を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歌唱の練習を行う。</li> <li>どのようなイメージでどのように表現を工夫したかを，メタモジ内のワークシートに記入しクラスで共有する。</li> <li>工夫した点を共有した後，グループごとに発表を行う。その際に 第1時の演奏動画も鑑賞し，第1時とどのような変化があったか比較する。</li> </ul> <p>●発表して感じたことを個人で振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「美女と野獣」を鑑賞する前後では，どのように演奏方法が変わったか，ワークシートに記入する。</li> <li>物語のあらすじや歌詞の内容，登場人物の心情などを理解することにより，自分自身のイメージもわきやすくなり，それを演奏に表現することができるということを学ぶ。</li> </ul>	<p>技② ◆演奏発表</p>		<p>愚 ◆観察</p>

8 本時の学習

(1)目標 転調の効果や速度や強弱などの表現上の工夫を生かし、イメージをもって歌唱表現する。

(2)展開

学習活動	○指導上の留意点	◇評価規準◆評価方法
<p>1 これまでの活動を振り返り、本時の目標を確認する。</p>	<p>○前時作成したワークシートを配布し、前時に考えた歌唱表現の工夫を生かして歌唱発表</p>	
<p>2 グループに分かれ、練習を行う。</p> <p>3 表現方法の工夫を、ワークシートに記入する。(メタモジ)</p>	<p>○曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方で歌唱できているかどうか確認する。</p> <p>○楽曲のイメージや、強弱や速度などの表現上の工夫、転調後の表現方法などをワークシートに記入させる。</p> <p>○各班のワークシートをテレビ画面に映し、全体で共有する。</p>	<p>歌唱表現しよう</p> <p>【技】◆演奏発表</p>
<p>4 発表する。</p>	<p>○他者との調和を意識して歌唱できているか確認する</p> <p>○イメージをもち、根拠をもって表現の工夫をして歌唱できているか確認する。</p>	<p>【態】◆観察</p>
<p>5 本時のまとめをする。</p>	<p>○速度や強弱を工夫したり、転調する箇所の表現を工夫することにより、表現が豊かになるということを知覚、感受させる。</p> <p>○各班の表現の工夫からさまざまな楽曲解釈、表現方法があるということを理解させる。</p>	

(3) 評価及び指導(手立て)

<p>A 「十分満足できる」と判断される具体的な状況</p>	<p>楽曲のイメージをもち、歌詞の意味や映画のシーン、転調の効果などを理解し、歌唱表現の工夫を速度や強弱に着目して、試行錯誤をして歌唱することができている。</p>
<p>B 「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導(手立て)</p>	<p>楽曲に対してどのようなイメージを持っているか声かけをし、歌詞の意味を考えたり、映画のシーンを思い浮かべるように助言する。自分自身の持つイメージをどのように表現すると相手にも伝えることができるかを、速度や強弱に着目し、歌唱に表出できるように助言する。</p>

〈主体的に学習に取り組む態度〉

<p>A 「十分満足できる」と判断される具体的な状況</p>	<p>自分自身のもつ楽曲のイメージと世界観を表現するために、今までに学んだことを生かして表現の工夫を考えている。自分の考えや意図を、言語化して相手に伝え、また他者の意見を尊重して聞き、音楽表現の多様性について知り、音楽表現に生かそうとしている。</p>
<p>B 「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導(手立て)</p>	<p>自分自身のもつ楽曲のイメージを他者に伝えるために、「このようなイメージ」という抽象的な表現ではなく「こういうイメージだから、このように表現の工夫をする」というように具体的に説明ができるように助言する。</p>

### 3. フレッシュ研修Ⅱを通して得たこと

徳島県立ひのみね支援学校 教諭 藤本 壮

はじめに

フレッシュ研修Ⅱの目的は、幅広い知見を通して「授業力・学習指導」をはじめとする実践的指導力の向上を図るとなっており、より良い授業ができるために企業等研修、模擬授業研修、2回の研究授業に取り組んだ。本研修を通して得たこと、研究授業で生かしたことをまとめる。

#### 1. 企業等研修

企業等研修では「阿南市科学センター」で研修を受けさせていただいた。本研修の最後の目的としては、「おもしろ科学実験」を実演することである。2名の先生方と担当の方と一から内容やどのように実演するかを考えた。見せ方や提示の仕方等視覚的な工夫にこだわった。実演すると先ほどの視覚的な工夫やどのような方法を使ったら子ども達が実際に体験していると感じるかといったことに難しさを感じた。自身の専門教科である音楽においても教材の提示の仕方や生徒が主体的に取り組むことの難しさに課題をもっていたので参考になった。貴重な機会を与えてくださったことに感謝したい。

#### 2. 模擬授業研修・研究授業

1回目の研究授業では、生徒に合った教材の選定と生徒が主体的に取り組むことのできる工夫が課題となった。模擬授業研修では10年次の先生方の模擬授業に参加させていただいた。校種は違ったが、目の前の生徒に合った教材の選定と、主体的に取り組むための綿密な工夫が随所に感じられ、実際に工夫している箇所や日頃から意識していること等非常に参考になった。2回目の研究授業ではこれらを生かし、授業づくりに取り組んだ。課題はたくさんあったが、1回目の授業に比べて生徒が主体的に取り組んだり、この教材を選択して良かったというような反応が見られた。今後に生かしたい。

#### 3. おわりに

フレッシュ研修Ⅱではより良い授業を実践するために様々な機会をいただいた。今後も常に自身の授業を振り返り、生徒が主体的に取り組むことのできる授業を目指していきたい。最後にこの研修を通して貴重な機会を与えてくださった方々に感謝申し上げます。

# 音楽科学習指導案

授業日時 令和6年11月29日（金）5校時

対 象 中学部1・2組（5名）

場 所 音楽室

指 導 者 藤本 壮（T1），（T2），（T3）

1 題材名 「チャチャチャは素晴らしい」の中で打楽器を演奏しよう！！

## 2 題材の目標

- （1）「チャチャチャは素晴らしい」のリズムの特徴や鳴らす箇所に気付き，教員の呼びかけや歌唱に反応して楽器を鳴らす技能を身に付ける。
- （2）「チャチャチャは素晴らしい」のリズムの特徴を感じ取り，自分なりの鳴らし方で打楽器を鳴らして表現する。
- （3）「チャチャチャは素晴らしい」のリズムの特徴や楽器の音色に関心をもち，友だちの演奏や教員の演奏・歌唱を聴いたりして音楽活動に取り組む。

## 3 教材 リズム遊び 「チャチャチャは素晴らしい」

東口龍男作詞 Enlign Jorin作曲 クニ河内編曲

## 4 題材について

### （1）生徒の実態

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒A （1年女子）	・腕を振り下ろして，キーボードやハンドベルを鳴らすことができる。 ・教員の歌唱や好きな曲には笑みを見せるなど音や楽曲の違いに気付くことができる。	・教員の歌唱や演奏を聴いて楽器を鳴らして表現している。	・鑑賞や楽器を演奏する際に声を出したり，画面や演奏者を注視したりするなどして音楽活動に取り組んでいる。
生徒B （3年男子）	・アップテンポの楽曲や，高い音には笑みを見せることがあり，注視するなど，音色の違いに注目する。 ・マレットを握ることができ教員の支援を受けずに，木琴やバスウッドなどを叩くことができる。	・教員の範奏の回数（2・3回）を聴き分けて，バスウッドを鳴らしたりして表現している。	・自ら楽器を鳴らしたり，自身の好きな楽曲や音を聴く際は笑顔を見せたり，前のめりになったりしながら表現者に目を向けるなどして音楽活動に取り組んでいる。
生徒C （3年女子）	・自身の好きな曲が流れたり，歌声が聞こえたり	・歌唱やピアノの演奏に気付いて，楽曲の中で自身の	・鑑賞の際は，画面に映っている映像や音色に関心を示し，自ら楽

	すると、画面を注視したり、該当曲の振り付けをしたりするなど音の違い、楽曲の違いに気付く。 ・教員が前方に楽器（ミニツリーチャイム等）を提示すると自分で手を伸ばして鳴らしたり、マレットを握り鳴らしたりすることができる。	鳴らす箇所を楽器を鳴らし、表現している。	器を鳴らして音色や楽器の感触などに興味をもつなどして音楽活動に取り組んでいる。
生徒D (3年男子)	・自身の好きな音色には声を出して笑い、色の違いに気付く。 ・教員と一緒に楽器を鳴らし慣れると自身で楽器を握って鳴らすことができる。	・音色の違いを感じたり、教員と一緒に楽器を鳴らし、表現している。	・自身の好きな楽曲や音色では声を出して笑って聴いたり、友だちが鳴らした音や自身の鳴らした音を聴いたりして、音楽活動に取り組んでいる。
生徒E (3年男子)	・楽しく明るい楽曲では声を出して笑い、別れの曲や悲しい曲では泣き出すなど音色の違いや曲の雰囲気の違いに気付く。 ・教員と一緒に楽器を鳴らすことができ、回数を重ねると自身で指を動かし鳴らす。	・音色の違いを聴いたり、歌詞の内容を聴き分けたり、教員と一緒に楽器を鳴らして表現している。	・自ら音を鳴らすことは少ないが、友だちの鳴らしている姿や音色を見たり、聴いたりするなど、自分なりの楽しみ方で音楽活動に取り組んでいる。

毎時間はじまりの歌として「幸せなら手を叩こう」を用いて「〇〇さん音鳴らそう」といった言葉かけの中で当初は鳴らすタイミング以外で鳴らすこともあったが、回数を重ねると、自身の鳴らす箇所ですぐに演奏方法で鳴らすことができるようになった。おわりのうたでもミニツリーチャイムなどを鳴らし、楽器に触れる回数を増やした。

歌唱・器楽では、スイッチを押したり、ハンドベルやトーンチャイムを鳴らしたりするなどして、様々な楽器を演奏し、教員と一緒にあっても自身の鳴らす箇所に少しでも気付くといったことを目標として経験を重ねてきた。本授業の生徒は教員の支援が無い状態で、曲の拍子の中で演奏することは難しい。しかし、少しずつではあるが、教員の演奏や歌唱に続いて自身の鳴らす箇所を楽器を鳴らす回数が増えてきている。

鑑賞活動では、毎時間季節に関連した曲や表現の活動で扱った教材と関連した楽曲を鑑賞している。鑑賞活動において長時間画面を注視するといったことは難しい。しかし、自身の好きな曲や音には声を出したり、身体を動かしたり、時には悲しい曲に涙を流すなどして生徒それぞれの方法で鑑賞活動に取り組んでいる。

## (2) 教材について

本授業では「リズム遊び」を教材として扱い、楽曲としては「チャチャチャは素晴らしい」を扱う。その理由としては2つある。1つ目は生徒がこれまでの音楽授業の中で「リズム遊び」で楽器を鳴らすといった経験を重ねている。「リズム遊び」の中で鳴らすことで楽器を楽しく鳴らすことができている、はじまりの歌でもその経験を活かし楽器を鳴らすことができていることが理由である。2つ目は生徒が楽しく音楽の中で楽器を鳴らすことができると共にその中でも楽器を鳴らす箇所がはっきりしており自身が本授業までの音楽の授業の中で重視してきた点と合致することが理由の1つである。生徒が音を鳴らすことを楽しみつつ、自身が鳴らす箇所、タイミングに気付くことができる教材と考え選択した。

## (3) 指導に当たって

この授業では目標を「リズム遊びの中で自身の鳴らす箇所で打楽器を鳴らそう」としている。その目標を達成し、生徒が主体的に演奏活動に参加することができ、打楽器を鳴らしたことに達成感を得ることができる手立てを用意する。生徒は打楽器を鳴らすことを楽しんでいる様子が見られたり、マレットで楽器を鳴らしたり、掌で叩いて鳴らしたりそれぞれの方法で演奏をしていることから、授業の中でよく打楽器を扱っている。自身の鳴らす箇所で鳴らすことができるように、教員の演奏と同じ回数叩く模倣や、視覚的にリズムと同じ数の楽器を提示するなどといった手立てを続けている。初めての楽器をする際は抵抗感を少なくするために先に教員が演奏したり、はじめは一緒に鳴らしたりするなどといった手立てを常に行っている。「リズム遊び」の中で楽しんで打楽器を鳴らしつつも、自身の鳴らす箇所で鳴らすこと、様々な楽器を演奏することで初めての楽器に対する抵抗感を少なくするなど今後の音楽の授業での活動に繋げたいと考える。

## 5 本題材で扱う学習指導要領の内容

特別支援学校（知的）小学部A表現 2段階

イ 器楽の活動を通して次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身近な打楽器などに親しみ音を出そうとする思いをもつこと。

(イ) ⑦拍や曲の特徴的なリズム

(ウ) ⑨教師や友達と一緒に演奏する技能

〔共通事項〕

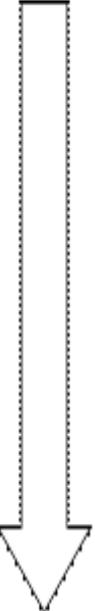
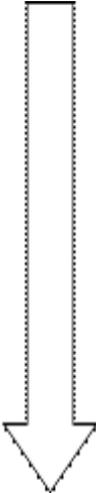
ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。

(本題材の学習において、生徒に思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素)「リズム」

6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b>「チャチャチャは素晴らしい」のリズムの特徴や鳴らす箇所気付いている。</p> <p><b>技</b>鳴らす箇所呼びかけや歌唱に反応して、打楽器を演奏する技能を身に付けている。</p>	<p><b>思</b>「チャチャチャは素晴らしい」のリズムの特徴を感じ取り、自分なりの鳴らし方で打楽器を鳴らし表現している。</p>	<p>「チャチャチャは素晴らしい」のリズムの特徴や楽器の音色に関心を持ち、友だちの演奏・教員の歌唱を聴いたりして音楽活動に取り組もうとしている。</p> <p>(友だちや教員の歌唱に目を向け、自身で持ち方や鳴らし方を工夫して、自分なりに鳴らし方を調整しようとしている。)</p>

7 指導と評価の計画 (本時4/4時間)

時	◎ねらい ●学習内容 ・学習活動	評価 (◆評価方法)		
		<b>知</b> ・ <b>技</b>	<b>思</b>	<b>態</b>
1, 2, 3	<p>◎「チャチャチャは素晴らしい」で、友だちと一緒に鳴らしたり、一人で鳴らしたりすることができる。</p> <p>●楽曲について学習する。                      ・「チャチャチャは素晴らしい」の原曲、教員の演奏の順に聴き、本教材について知る。                      ・実際に教員が演奏している所を見て、本授業で自身が行う活動について知る。</p> <p>●それぞれの楽器を鳴らし、鳴らす箇所や、楽器の鳴らし方・特徴について知る。                      ・それぞれにあった支援方法で演奏できるようになる。</p> <p>●呼びかけや歌声に反応して自身の鳴らす箇所で楽器を鳴らせるようになる。                      ・最初は全員で同じタイミングで鳴らし、自身が鳴らす箇所について知る。                      ・〇〇さん鳴らそう・も一度鳴らそうといった歌詞の後に鳴らすことに気付く。                      ・それぞれの方法で楽器を鳴らす。</p> <p>●自分たちの活動に関連した楽曲を鑑賞する。                      ・教員が事前に説明したポイントや、自分が気になることなどを感じながら鑑賞する。</p>	 ◆ 観察 知	 ◆ 観察 思	
4	<p>◎「チャチャチャは素晴らしい」の中で、リズムの特徴や鳴らす箇所に気付く、歌唱や呼びかけに応じて個人や友だちと鳴らすことができる。</p> <p>●本時の活動と目的について確認する。</p>			

<ul style="list-style-type: none"> <li>・前方のテレビ画面映し出されている、スケジュールや教員の言葉で本時の活動や目標に関して知る。</li> <li>●前時までの復習をする。</li> <li>・個人での演奏，全員での演奏をそれぞれ一通りすることで前時までの活動内容を復習する。</li> <li>●「チャチャチャは素晴らしい」のチャチャチャ部分を演奏する。</li> <li>・前時までの活動を活かし，教員の歌唱や呼びかけに続いて，それぞれにあった支援方法で自身の鳴らす箇所を鳴らす。</li> <li>・個人での演奏が終わった後は，全員で一緒に歌唱に続いて鳴らす。</li> <li>●全員で円になって鈴ロープを協力して鳴らす。</li> <li>・教員も含め円になって全員の表情や鳴らしている動きが見える状態で同じタイミングで鳴らす。</li> <li>●自分たちの活動に関連した楽曲を鑑賞する。</li> <li>・教員が事前に説明したおすすめポイントや，自分が気になることなどを感じながら鑑賞する。</li> </ul>	<p>◆ 観 察 技</p>		<p>◆ 観 察 態</p>
---	----------------------------	--	----------------------------

## 8 本時の学習

### (1) 目標

生徒A	「チャチャチャは素晴らしい」の中で，教員の歌唱に気付き，続いて電子ドラムを腕を振り下ろして鳴らすことができる。
生徒B	「チャチャチャは素晴らしい」の中で，自身の鳴らす箇所や，鳴らす回数に気付き，マレットを握って叩く場面において3回鳴らすことができる。
生徒C	「チャチャチャは素晴らしい」の中で，自身の鳴らす箇所や，鳴らす回数やリズムを教員の楽器提示によって気付き，教員の歌唱に続いて，マレットを握ってチューナブルドラムを鳴らすことができる。
生徒D	「チャチャチャは素晴らしい」の中で，教員の歌唱や呼びかけによって鳴らす箇所に気付き，力を緩め，マラカスを自身の手で動かしながら教員と一緒に鳴らすことができる。
生徒E	「チャチャチャは素晴らしい」の中で，教員の呼びかけや歌唱によって鳴らす箇所に気付き，マレットに手を添えて離さない等教員の支援を受け入れてシンバルを音楽の流れの中で鳴らすことができる。

(2) 展開

学習活動	○指導上の留意点	◇評価規準 ◆評価方法
<p>1. はじまりの歌（♪幸せなら手をたたこう）で楽器を鳴らしたりする。 (10分)</p>	<p>○生徒が自発的に鳴らしたり、教員の支援を受け入れ鳴らしたりするまで待つ。</p>	
<p>2. 本時の目的、演奏方法について確認し、前時までの復習を行う。 (10分)</p> <p>3. 「チャチャチャは素晴らしい」を演奏する。 (5分)</p>	<p>○本時の流れについて教室前方のテレビに映し出し、教員が説明する。</p> <p>○本時のめあてを画面に映し出し確認する。</p> <p>○今まで通り、一通り演奏し、生徒が本時の活動について見通しをもてることができるようにして、次の活動に備える。</p> <p>○それぞれにあった支援方法で自身の鳴らす箇所で演奏することができるようにする。</p> <p>演奏する際のT1、T2、T3の支援、演奏する打楽器については下記。</p> <p>(生徒A)：電子ドラム T1・T2：他の生徒の横に立ち、歌唱をして演奏を呼びかける。 T3：少し右よりに電子ドラムを提示し、掌が下に向くように、手首を回旋する。</p> <p>(生徒B)：木琴 T1：他の生徒の横に立ち、歌唱をして演奏を呼びかける。 T2：練習の際は模倣をするなどして支援し、鳴らす際には呼びかけなどをする。 T3：演奏外において、生徒と一緒にマレットを握り、順番を待つ。</p> <p>(生徒C)：チューナブルドラム T1 生徒が鳴らすタイミングで楽器を提示し、3回鳴らすと楽器の提示をやめる。 T2・T3・他の生徒の横に立ち、歌唱をして呼びかける。</p> <p>(生徒D)：マラカス T1・T2：他の生徒の横に立ち、歌唱をして呼びかける。 T3：生徒の後方からマラカスを持ち、生徒と一緒に鳴らす。 生徒が少しでも自分の力で鳴らすことができるようにする。</p> <p>(生徒E)：シンバル</p>	<p>◆観察 ◇<input type="checkbox"/>技・◇<input type="checkbox"/>態</p>

	<p>T1・T3：他の生徒の横に立ち、歌唱をして呼びかける。</p> <p>T2：マレットの後方部分をもって支え、生徒が力を緩めた際に音が鳴るように支援する。</p> <p>○円になり教員も含めて全員で鈴ロープを持ち、一緒に鳴らすことができるようにする。</p> <p>○強弱を変えたり、速度を変えたりして、全員で楽器を演奏することを楽しめるようにする。</p>	
<p>4. 「チャチャチャは素晴らしい」の中で鈴ロープを使い、全員で演奏する。(5分)</p> <p>5. 「シングシングシング」を鑑賞する。(10分)</p>	<p>○鑑賞前の注目するポイントや、面白いポイントを1つ説明し、生徒が画面を注視することができるようにする。</p>	
<p>6. おわりの歌（♪星に願いを）を歌う・楽器を鳴らす。(5分)</p>	<p>○楽曲のはじまりとおわりにミニツリーチャイム・ウインドチャイムを鳴らして曲のはじまり・おわりが生徒にわかるようにする。</p>	

(3) 評価および指導（手立て）

〈技能〉

<p>A 「十分満足できる」と判断される具体的な状況</p>	<p>「チャチャチャは素晴らしい」のリズムの特徴や鳴らす箇所に気付き、教員の呼びかけや歌唱に続いて、それぞれにあった支援方法で打楽器に触れ、音を鳴らすことができている。</p>
<p>B 「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導（手立て）</p>	<p>はじまりのうたでの演奏とも関連付け、これまでの学習を生かすことや、実際に経験を重ねることで生徒が楽器を鳴らすことや鳴らす箇所などを確認する。</p>

〈主体的に学習に取り組む態度〉

<p>A 「十分満足できる」と判断される具体的な状況</p>	<p>「チャチャチャは素晴らしい」の中で、自分や友だちの演奏聴いたり、反応を示したりすることや、自分なりの鳴らし方を見つれたりするなどして、音楽活動に取り組んでいる。</p>
<p>B 「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導（手立て）</p>	<p>生徒にあった楽器を選択して、生徒が活動にスムーズに取り組めるようにすることや、演奏する機会を重ねるなどして、より音楽活動に対して積極的に参加することができるように支援を行う。</p>

## 4. ジャンプアップ研修を終えて

海部高等学校

梅本 香織

ジャンプアップ研修が終わろうとしています。

10月の研究授業では、表現領域の器楽、創作と内容を関連させた題材に取り組みました。この題材に取り組むにあたり、上原指導主事が指導案や教材について指導してくださいました。自分が生徒へ何を伝えたいのか、最終的にどのような力を生徒へ身に付けさせたいかなど、教材研究の大切さを改めて痛感しました。また、多くの先生方に参観していただき、ご意見やご感想をいただいたことは、私にとって貴重な機会となりました。本当にありがとうございました。

さて、昨年11月13日、日本を代表する詩人、谷川俊太郎さんが92歳でお亡くなりになりました。谷川俊太郎さんは、全国各地で校歌の作詞を手がけたことでも知られていて、海部高校の校歌も作詞されています。本校の校歌は、校歌なのに歌詞に学校の名前や地名が入っていません。その代わりに校訓である「絆・学・夢」「宇宙」「地球」という言葉が使われています。そして、「学ばずにいられない」という特徴的な歌詞があり、最後には『**世界がどんなに苦しんでいるときも 学ばずにいられない きらめく未来めざして**』と締めくくられています。この歌詞には、どんなに苦しいことがあっても、未来に向かって「学」び続けようという谷川俊太郎さんからのメッセージが込められていると感じます。

音楽の授業、部活動で我慢をしなければいけない悔しさを味わったコロナ禍でのフレッシュ研修を経て、新しいことに挑戦しながら、生徒とともに充実した音楽活動ができる喜びをかみしめながら、日々、授業や部活動に取り組んでいます。これからも、『学』び続ける姿勢を持ち続け、生徒とともに成長していきたいと思えます。

今後ともご指導のほどよろしく願いいたします。

## Ⅸ 令和6年度 徳島県高等学校教育研究会音楽学会会員名簿

会 長 向 井 佳 子 (名西高等学校)

副 会 長 北 川 昌 代 (脇町高等学校)

学 会 幹 事 上 原 慎 太 郎 (名西高等学校)

### 城東高校

1 葉 久 かおり 教諭

### 富岡東高校

1 柁 田 真 輝 講師

### 脇町高校

1 北 川 昌 代 教諭

### 城南高校

1 和 泉 康 洋 教諭

### 富岡西高校

1 常 陸 貴 生 教諭

### 池田高校・辻校

1 照 井 冬 華 講師  
(兼務)

### 城北高校

1 石 川 宏 美 教諭

### 阿南光高校

1 三木野 喜 子 教諭

### 徳島視覚支援学校

1 仁 木 悦 子 教諭

### 城ノ内中等教育学校

1 坂 東 遥 教諭

### 海部高校

1 梅 本 香 織 教諭

### 板野支援学校

1 長 町 美 希 教諭

### 徳島北高校

1 榊 一 二 三 教諭

### 鳴門高校

1 岩 崎 律 子 教諭

### 国府支援学校

1 今 津 崇 晴 教諭  
2 黒 木 小百合 教諭

### 徳島市立高校

1 岸 秀 典 教諭

### 板野高校

1 小 谷 直 也 教諭

### ひのみね支援学校

1 豊 田 尚 子 教諭  
2 藤 本 壮 教諭

### 城西高校

1 庄 野 光 講師  
(森 長 友 希 教諭)

### 名西高校

1 吉 田 美 恵 教諭  
2 森 本 奈央子 教諭  
3 上 原 慎太郎 教諭  
4 丸 岡 聖 子 教諭  
5 井 上 郁 代 教諭

### みなと高等学園

1 原 口 絵 里 教諭

### 科学技術高校

1 東 川 容 子 教諭

### 阿南支援学校

1 濱 田 三貴子 教諭  
2 細 井 京 子 教諭

### 徳島商業高校

1 梅 本 敏 行 教諭

### 川島高校

1 岸 直 美 教諭

### 池田支援学校

1 山 田 麻依子 教諭

### 小松島高校

1 山 根 幹 教諭

### 阿波高校

### 阿波西高校

1 橋 本 二千翔 教諭  
(兼務)

### 小松島西高校・勝浦校

1 松 丸 麻祐子 教諭  
(兼務)